

はじめに

今回の UED レポート 2026 別冊は、「災害と社会」研究談話会と「人新世生存」研究会の最近の発表からまとめられた研究論文を転載することとした。

UED レポート 2021 夏号「ポストコロナの持続可能な都市と国土—SDGs と NUA を巡って—」に、外岡豊氏に「気候変動・持続可能性と地球の危機・人新世」を寄稿戴いた。私は、外岡氏に誘われて、氏が主催する「人新世生存」研究会と、共同して富山の富樫豊氏が主催する「災害と社会」研究談話会に、2023 年 11 月から参加させて戴いている。

この度、外岡氏から両研究会の最近の成果を取りまとめたので、紙媒体でもあり、これまでの国土・地域に関する刊行物として一定の実績を有している UED レポートに掲載してもらえないかとの相談を受けた。ここで討論されているテーマが、地球環境、災害、市民社会といったものを中心としており、これまで UED レポートで取り上げてきたテーマとも親和性が高いと判断し、別冊として刊行することとした。

本論文報告は、大きくは 3 つの内容から構成されている。

一つ目は、地球環境危機の切迫性を論ずる星野氏の「**The Anthropocene Realism**」、外岡氏の「気候危機、人新世、生物大絶滅」を核に、熊澤氏の「温暖化における二酸化炭素の寄与について」、糸長氏の「サバイバル・エココミュニティのデザイン」等が掲載されている。

二つ目は、自然災害、人為災害を含む災害系の内容で、橋本氏の「能登半島地震による宅地盛土及び擁壁被害の状況と課題」、中林氏の「大規模災害時の避難所システム不全問題」、神田氏の「建築の自然災害への対応の限界と社会のあり方」、糸長氏の「チッソ水俣病と東電原発災害の共通性」等が取り上げられている。

三つ目は、富樫氏の「市民社会の熟成に向けた社会的基礎土壌づくり～足元からの積み重ね」、地域への提言と社会への提言、大塚氏の「対話と参加を文化に」等、言わば市民系とも言うべき内容である。

これらは、「人新世生存」研究会及び「災害と社会」研究談話会で発表され、議論された内容を中心に、論文としてまとめられており、多くの示唆に富んでいる。

今回、紙幅の関係から掲載できなかった討論論文、プレゼン論文報告については、「災害と社会」研究談話会のホームページに掲載されているので、そちらを参照戴きたい。

一般財団法人日本開発構想研究所 代表理事 阿部和彦